

復刻版 かいち 開知新聞 全11巻

表示価格はすべて税別

体裁—A4判(第1~3巻)、A5判(第4~11巻)

／上製本／総約5、700頁

揃定価—本体217、000円+税

解説—齊藤智朗(國學院大學研究開発推進機構 准教授)

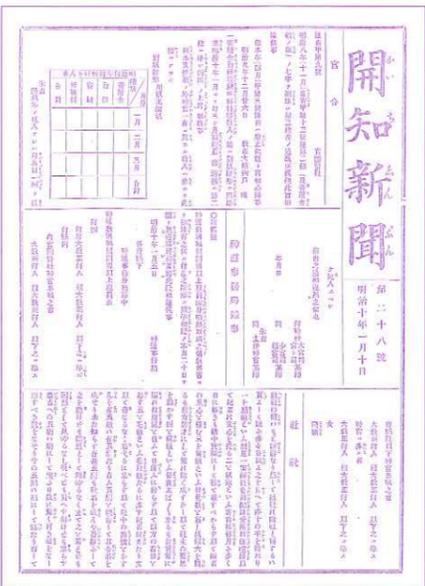
—第1巻の巻頭に収録

推薦—阪本是丸・島蘭進

原本提供—國學院大學図書館／東京大学大学院法学政治学

研究科附属明治新聞雑誌文庫

欠号—第1~14・16~21・444・446~448・460号



◎配本概要(第1回配本は、第4巻から始まります。)

第2回配本	第1回配本	第3回配本
第11巻 第四三二号~第四五九号	第7巻 第三一五号~第三四三号	第3巻 第一八三号~第二七号
—一八八〇(明治二三)年一〇月二六日~一八八一(明治二四)年三月二二日	—一八七九(明治二二)年七月二日~一〇月八日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日
第10巻 第四〇二号~第四三〇号	第6巻 第二八六号~第三一四号	第4巻 第二八号~第二五六号
—一八八〇(明治二三)年六月一日~一〇月二二日	—一八七九(明治二二)年三月一九日~六月二九日	—一八七八(明治二二)年八月一四日~一月二四日
第9巻 第三七三号~第四〇一号	第5巻 第二五七号~第二八五号	第2巻 第一〇三号~第一八二号
—一八八〇(明治二三)年二月一日~五月一六日	—一八七八(明治二二)年二月二七日~一八七九(明治二二)年三月一六日	—一八七七(明治二〇)年七月一日~一八七八(明治二二)年三月三日
第8巻 第三四四号~第三七二号	第4巻 第二二八号~第二五六号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七九(明治二二)年一〇月二日~一八八〇(明治二三)年一月二八日	—一八七八(明治二二)年一月二二日~一八七九(明治二二)年三月一六日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第7巻 第三一五号~第三四三号	第3巻 第一八三号~第二七号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七九(明治二二)年七月二日~一〇月八日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第6巻 第二八六号~第三一四号	第2巻 第一〇三号~第一八二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七九(明治二二)年三月一九日~六月二九日	—一八七七(明治二〇)年七月一日~一八七八(明治二二)年三月三日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第5巻 第二五七号~第二八五号	第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七八(明治二二)年二月二七日~一八七九(明治二二)年三月一六日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第4巻 第二二八号~第二五六号	第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七八(明治二二)年八月一四日~一月二四日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第3巻 第一八三号~第二七号	第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第2巻 第一〇三号~第一八二号	第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七七(明治二〇)年七月一日~一八七八(明治二二)年三月三日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日
第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号	第1巻 第一五号~第二二号
—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日	—一八七八(明治二二)年三月一〇日~八月一〇日	—一八七六(明治九)年二月二八日~一八七七(明治二〇)年六月二九日

不二出版

T113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
フアクシ03-3812-4464
振替001602-94084

明治9年~14年刊行、転換期の神道界を俯瞰する神道事務局機関紙を復刻!

『開知新聞』は神官教導職の中核として明治八年三月に創設された神道事務局の機関紙で、明治九年、弘道社から発行された。全国の神道諸派を結集、統括する役割をもって、全国の神社で購読されたと考えられる。当紙は明治一三年より本格化した祭神論争の決着、明治一四年の神道大会議を経て廃刊に至った。

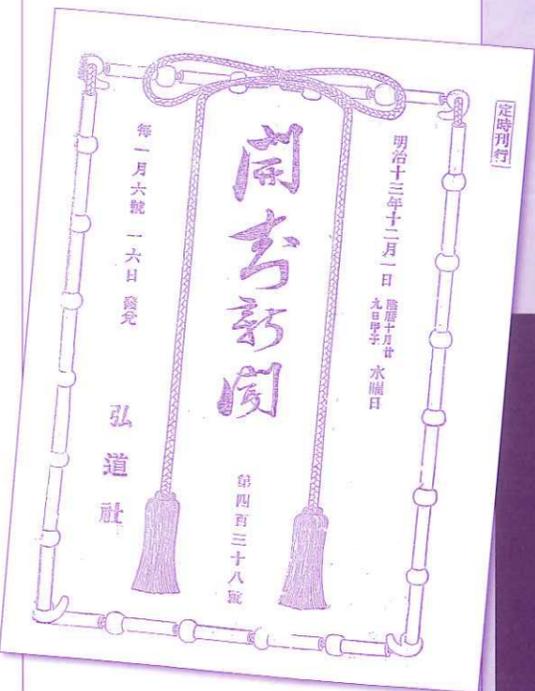
内容は神道事務局からの報告、神官の任免記事をはじめ、全国の神社に関するニュース、各地の神官からの投稿や国内外の時事ニュースなどが掲載されている。

神道界の動きを通して、明治初期から中期にかけての転換期を知るための貴重な資料である。——不二出版

復刻版

かいち 開知新聞

全11巻



- 体裁—A4判・A5判／上製本／総約5、700頁
- 解説—齊藤智朗(國學院大學研究開発推進機構 准教授)
- 推薦—阪本是丸／島蘭進
- 原本提供—國學院大學図書館／東京大学大学院法学政治学研究科附属明治新聞雑誌文庫
- 価格—本体217、000円+税
- 刊行—2013年11月~2014年11月(全3回配本)

明治神道史の

一齣を窺わせる貴重な資料

阪本是丸

近代における神社・宗教行政は、試行錯誤と挫折の連続であり、これによって齎されたものが現在の宗教をめぐる様々な問題に直結している事はいうまでもなからう。かかる試行錯誤と挫折の一つが、キリスト教対策を目的とする国民教化を推進するために設置された教導職制度であった。明治政府は、全国の神官僧侶を教導職として採用し、国民教化に携わらせたが、明治八年の大教院解散による神仏合同布教の破綻、十年の教部省廃止、十五年の神官教導職分離といった紆余曲折を経て、日本型政教関係を確立して行く。このような教導職制度を中心とする明治宗教史の展開については、ややもすると天皇制イデオロギー浸透政策の転機として、或いは、教化活動の無力さに着目されがちである。だが、教導職制度が教派神道を準備した点は評価されるし、そもそも、教導職制度の存在が神社・神職にとっていったいどのような意義を有していたのかという課題は、いまだ残されたままである。

今般復刻される『開知新聞』は、このような課題に対して多くの有効な情報を提供してくれる貴重な資料である。神官教導職の中核として設置された神道事務局の機関紙という性格から、その内容は、神道事務局の報告事項や教導職の巡教活動報告、時事問題に対する投稿などが主であり、ここから当時の神職を中心とする教導職たちの生の声を聞くことができる。

この『開知新聞』復刻版によって、国民教化を遂行した教導職たちの実情を窺い知ることが可能となるだろう。

(國學院大學神道文化学部教授)

国家神道の形成過程をうかがう

有力な手がかりに

島蘭進

現在、神社神道とよばれる宗教集団は明治維新以後に形成されてきたものだ。皇典講究所や皇學館による神職養成システムが整い、内務省神社局によって統括されることで連合体の一体性が形成されていったが、それは明治中期のことだ。

明治初期には神道事務局という組織があり、「神道教導職」を束ねていた。『開知新聞』はこの時期の神道事務局に集う人々の分け持とうとした情報、目指そうとするところを知る絶好の資料である。明治九年から一四年にかけての時期、神道事務局はなお多様な要素を抱え込んでいた。その中で皇室神道と直結し天皇崇敬を宣揚し、統一した組織体に組み込んでいこうとする方向性も強く打ち出されている。

やがて祭神論争を経て教派神道との分離が明確になっていくが、この段階では「惟神の道」を宗教として打ち出していこうとする姿勢も見える。政治的な時事問題も度々取り上げられている。

『開知新聞』は明治前期、国家神道の形成はどのようになされたのか、宗教と国家の関係はどのように変遷したのか、神道界からの動向を知る資料として貴重なものである。転換期の神道、神職の動向をうかがい、その後の神社神道のあり方を見直す上でも大いに活用されることになるだろう。

(上智大学神学学部教授、東京大学名誉教授)

内容見本

開知新聞

第二十七號

明治十年一月七日

官令

布達第八號

府縣

本年十月當省布達第七號中(引受相定)ノ下且黒住修成
兩派別立並前ノ十一字并ニ(何ノ部)ノ下及但書(望ノ
部)ノ下ニ派ノ字附發候條此旨更ニ神道教導職へ布達
スベキ事

明治九年十二月廿二日

教部大輔六戸 璣

番外

神佛各管長

當省布達並書番號來明治十年ヨリ別紙之通改正候條
此旨爲心符相達候事

明治九年十二月二十八日

教部大輔六戸 璣

- 丑甲第何號 人民一級へノ布達
- 丑乙第何號 各府縣へノ達
- 丑丙第何號 官國幣社へノ達
- 丑丁第何號 教導職へノ達

神道事務局 録事

第一號

教導職試補名簿届方之儀ニ付九年教部省乙第拾四號御
達之趣ニ有之候條同年七月ヨリ向十二月三十日迄神官
ニテ試補受命之者何神社府縣郷村社之區界及在籍を取

社説
凡そ人造化の神の造化によりてこの心魂性命あり然れ
ども教道によりされば其心魂性命と神賦のま、ふ全く
すること能はざりて性命を保つべき衣食のために反て
性命と害することあり喩へん小兒を育するが如く親
る者小兒は寒煖飢飽を節し其適宜の分を量りてまごり
ふ小兒の欲を縱まにせしめず教道の小兒を育するの
大なる者にして人の教道に率ふ小兒の母を養はる、
が如く故に教道に他非を飢て食ひ渴して飲ま暴わし
て單衣一寒にして重疊し君となり臣となり父となり子
となり夫となり婦となり兄弟とあり朋友とあり農工商
とあり上下尊卑富貴貧賤となりて相生養するのみを神
理ありて然りしむることを知らしめ人々をして其神理
を明かにし神意に遵ひて相生養の方を全くせしめんと
なり故に教道の猶母のごとく天下母なき子なくして
教道なきの國ならず然りて天下の人を母する者未だ必
走しも皆道と知らずして少兒を育するの方に是非得失

翻本月廿日限リ本局へ可被差出此段相達候事
但自今試補撰舉之節ハ本文ニ基可被致具狀候事
明治十年一月四日 神道事務局
神道事務局 中

雜報

○去る三日元始祭の御次第
午前第九時宮内省式部寮着床○次親王大臣參議院省使
應務府縣勅任官着床○次開扉三前 此間奏樂○次神饌
及御幣物を供す此間奏樂○次出御玉串を奉り給ひ御
拜御告文と奏し給ふ畢て入御○賢所御鈴如常○次親王
大臣以下勅任官拜禮○次宮内省式部寮奏任官判任官拜
禮○次御幣物及神饌を撤す 此間奏樂○次閉扉 此間
奏樂○次各退出
同日午前第十時○皇太后宮御拜御玉串を奉り給ふ畢て
内親王拜禮 此間宮内省式部寮着床○同十一時香燭
讀參拜○正午十二時より午後二時迄院省使應務府縣在
京奏任官神官奏任以上并勸導職六級以上有任華族等參
拜○次各退出
元始祭御告文 三前御同文
此大前 爾白左久年始乃 今日乃祭 爾恒乃 乃 爾御

開知新聞第四百五號附録

大教正千家尊福ヨリ大國主神ヲ表名シテ神道事務局
神殿へ合祀之儀建言ニ付本局ヨリ久遠宮給十四名ノ
諸教正へ諮詢アリシニ由テ各自呈セラレ見込書
千家大教正建言書

教ノ要トスル所斯人ナシテ天神ノ神意ヲ奉セシメ且死
生信賴スル所アラジムルニ在リ伏シテ惟ミルニ天神ノ
諾册ニ尊ニ命シ此深國ヲ修理固成セシメ玉ヒ且幽顯ヲ
分界分任シ玉フモノ何ソ他ナシ唯愛人ノ神意ニ出ルモ
ノナリ抑我大國主大神ノ刻苦碎身邪神ヲ勦蕩シテ國土
ヲ經營シ人民蕃息ノ道ヲ開テ醫藥禁厭ノ法ヲ創定シ玉
ラ者天神ノ勅ト父祖命ノ命トニ因ルト雖モ抑亦
人ノ神意ヲ奉シ玉フノ外ニ出サルナリ夫ノ顯世
命ニ讓リ玉フニ方リ一点ノ惜心ナキノ一事蹟亦
ヘキナリ是以天神其意ヲ嘉シ其功ヲ賞シ遂ニ以
テ大地官トナシ幽冥大主宰ト定メ玉フ亦宜哉
天照大神ノ照臨ノ神德ニ依テサレハ萬物其彩色

第四〇五号附録(明治一三年六月一五日)

スヘカラス大國主大神ノ造國ノ鴻恩ニ依ラサレハ萬物
其所ヲ得ル能ハス且國體ニ因リ而シテ言フカ其皇統
則天照大御神ニ出ルト雖モ起業ノ祖ハ則大國主大神ニ
非ヤ況ンヤ教ノ要トスル所死生信賴スル所ヲ定ムルニ
アリ而シテ我大神ハ幽冥ノ大主宰ニシテ宜シク信賴ス
ヘキ神ナルニ於テチヤ古人之ヲ天地ノ二貴ト變稱セシ
モ強言ニ非サルナリ因是觀之其功德ヤ則修理固成ノ天
勅ニ從ヒ其思慮ヤ則天神愛人ノ神意ヲ奉シテ大功業ヲ
立玉ヘバ之ヲ四神ト共ニ均ク其名ヲ表シ神殿ニ祭祀シ
以テ天下万姓ヲテ其信賴ナル所ヲ知ラシムルコソ天

總領事從五位勳五等前田正名

法朗西共和國政府ヨリ贈賜シタル、オフレシエードラ
ンシヨンドノール、勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許
ス
去る九日神道事務局より左の通り命ぜられたり
權少教正 伊藤祐輝

右大會議ニ付諮詢掛副長擔任可有之候事

○今回神道の大會議は容易ならざる重大の事也る四方
敬神愛道の諸君耳を創立待給ふ可く記者も亦成る可
く實況を報道せま欲すれども如何せん新聞記者ハ傍
聽と斷されず徒に筆を握て凡上に彷彿するのみかれハ
唯窓外南北の行客カ巷説を傳聞して誤謬を流布せん事
を恐る故に暫く報道を緩ふすも近日其詳細なる
を得て續々次號に報道せん莫くは看官其趣を待給へ
今聊か其得たる兩を左に掲ぐ
七日前第九時神殿に於て祭典を行ひ内務卿松方正義

開知新聞第四百五十一號

第四五一号(明治一四年二月一一日)

君議長岩下方平君會議掛内務卿大書記官櫻井能監君大
政官少書記官多田好問君太政官權少書記官片岡忠教君
及以屬官の方々續て千家田中鴻平山本居折田權田の諸
教正を始め前後にも記載せし議員一同神拜式あり了て
議場に上る各員禮服着用にて滿場光整肅なり時に内務
卿松方君今回大會議の趣意を演説せられて議長岩下君
座に著く趣より各員互交に議長の前に進み議案件々を
質問し又總体論あり各異場

本日岩倉右大臣山田參議稻葉從四位の諸君東京府社寺
課字都野正武兵衛外一名傍聽せられ又教導職も數十名傍
聽を許されたり翌八日よりは逐條審議となり各員丹心
を吐露し雄辯高論侃々として又肅々實に我神道の發揚
す可き機會なりと總信せられ升

○博覽會の開場は來る三月一日に第二内國勸業博覽會
の開場式を執り行はるゝに付當日は聖上にも親しく其
場に臨ませられ儀式を覽らるゝ玉ふ由供奉にハ皇族

人類愛善會 発行(大正14年、昭和11年刊)
人類愛善新聞 全5巻・別冊1

「人類愛善新聞」とは、大正一四年に発会した大本(大本教)の外
郭団体である人類愛善會の機関紙であり、その読者は台湾、滿蒙、南
洋、南米にまで及び、昭和九年には百万部の発行部数を越えるに至
った。復刻された「人類愛善新聞」により、戦前の日本に最も影響を
与えた宗教指導者の一人である出口王仁三郎のアジア全域を巻き込ん
だ宗教運動とその思想、当時の社会や民心の動向、近代日本社会の思
想基盤等を理解する手助けとなるであろう。

昭和六次大禮記録資料 全4巻・別冊1

一九二八(昭和三年)年二月の「昭和六次」は、十五年戦争の開始
を目前にした、天皇制国家への民衆統合と動員のための最大の儀式で
あった。その記録は多数残されているが、その中から主要な三著作四
巻を復刻。

七一雜報 全8巻・別冊1

本書は、日本最初のキリスト教新聞「七一雜報」全三八九号の復刻
版である。創刊号において「啓蒙、文明化、キリスト教化」とその発
行意図を示した本紙は、キリスト教の伝播という使命とともに、西洋
の新文明を紹介した記事満載し、日本の近代文化の形成に大きな役
割を果たした。

仏教海外開教史資料集成

近代以降、多くの日本人が海外へと渡航していった。出稼ぎ、移民、
そして侵略——世界各地、日本人の赴くところには、必ず仏教伝道の
志を懐いた開教師(使)たちがいた。彼らは、ときに在外邦人の心の
灯火となり、外国伝道の拠点を築き、海外進出の先機関としての役
割を果たしてきた。仏教団体の海外開教の現状と歴史を検討するた
め、必要不可欠な資料集である。

近代以降、多くの日本人が海外へと渡航していった。出稼ぎ、移民、
そして侵略——世界各地、日本人の赴くところには、必ず仏教伝道の
志を懐いた開教師(使)たちがいた。彼らは、ときに在外邦人の心の
灯火となり、外国伝道の拠点を築き、海外進出の先機関としての役
割を果たしてきた。仏教団体の海外開教の現状と歴史を検討するた
め、必要不可欠な資料集である。

戦前期仏教社会事業資料集成 全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大
きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設
された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、
真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機
関の発行した社会事業の要覧、便覧、報告書等を収集整理し収録し
た。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も
含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史、社会福祉研究のた
めの基礎資料として提供する。

横浜活版社ほか刊(明治3年、明治39年刊)
横浜毎日新聞 全149巻・別冊1

「横浜毎日新聞」は、明治三年二月八日(陰曆、日本で初めての
日刊新聞として創刊された。当初は貿易商況記事を中心としていたが、
政論新聞時代の展開とともに政治性を帯びていき、明治一二年、沼間
守一が同紙を買収し社長につくとともに、編集局を横浜から東京へ移
し、紙名も「東京横浜毎日新聞」と改め、民権派言論の一翼を担うに
至り、俄然注目を集めた。

紙名の変遷「横浜毎日新聞」明治3年12月8日、12年11月16日
「東京横浜毎日新聞」明治12年11月18日、19年4月30日
「毎日新聞」明治19年5月1日、39年6月30日
体 裁II A4判・上製・総59、010頁
推 薦II 内川芳美・北根 豊・羽鳥知之、服部一馬
別 冊II 解説(「日刊新聞」)・総目次 全3巻
推 薦II 内川芳美・北根 豊・羽鳥知之、服部一馬
別 冊II 解説(「日刊新聞」)・総目次 全3巻
推 薦II 内川芳美・北根 豊・羽鳥知之、服部一馬
別 冊II 解説(「日刊新聞」)・総目次 全3巻

林 正明 主筆(明治9年、明治16年刊)
近事評論・扶桑新誌 全11巻・別冊1

「近事評論」「扶桑新誌」(のちに改題して「政海志叢」)は、ともに
林正明の主筆する共同社より発行された民権派の代表的雑誌である。
自由主義思想に立つ時事評論誌として明治政府を内外から揺るがす諸
問題——土族問題・条約改正・朝鮮問題・琉球処分問題などを鋭く論
じ続けた。そのラジカルな政府批判によってしばしば発売禁止や発行
停止、検閲処分などに遭いながら、新しい視点を提示し続けた本誌を
近代史研究に欠かせない資料として復刻する。